

# FEVER「ALL THE BEST」解説

FEVER Members:

BAIBUA(バイブア/Suphatcha Lojanarungsiri)  
BAIFERN(バイファーン/Phatchamon Wongchitmana)  
BAIMON(バイモン/Nictchanan Pattarapitak)  
BEAM(ビーム/Chiratchaya Janjiredrusmee)  
BEAMBEAM(ビームビーム/Kamonporn Kosriyarakwong)  
BOSS(ボス/Paleerat Konbang)

CEE(シー/Uradsaya Bunnag)  
FROY(フロイ/Penpitcha Amphichaluy)  
PLY(パーイ/Rattaya Pholkerd)  
POP(ポップ/Napassaporn Sriprapa)  
SPAM(スパム/Kasina Komes)  
SU(スー/Malee Saewang)

※付属写真集掲載順

## 「FEVERメンバーとファン、そして音楽シーンへ捧げる3年間の結晶」山麓 園太郎 (タイポップス探検家)

FEVERはタイの首都バンコクで2018年に結成されたアイドルグループです。当時はAKB48の海外支部BNK48がタイで国民的アイドルとしての地位を獲得した直後で、ブームの中「萌え」で「カワイイ」日本式アイドルグループが次々と生まれていました。しかし日本在住経験があるプロデューサーや自らもアイドル好きのミュージシャンらによる制作チームは冷静に現状を分析し「単なる日本式の模倣ではアイドルシーンで抜きん出る事はできない」と、今までタイには無かった新しいアイドル像を目指しました。

音楽制作のリーダーは「Gym And Swim」のチャルム(Chalermpol Soongsak)。彼の呼びかけに応じてPlastic Plastic、TELEX TELEXs、Polycat、FOLK9、mamakissといったタイの人気バンドのメンバーが楽曲提供、編曲、ミキシング、歌唱指導で参加。WORLD HIP HOP DANCE CHAMPIONSHIPで世界7位を獲得したD Maniac Studioが振付を施した「Start Again」で2018年12月にデビューします。

デビュー曲のMusic Videoのイメージと坂道系にヒントを得たと思われるシンプルな色使いの制服姿から「タイの櫻坂46」と評された時期もありましたが、デビュー3曲目の「Password」を発表する頃には更に複雑で立体感を増した振付とシティポップ調のサウンドがアイドルファン以外からも注目を集めます。良質な楽曲とスタイリッシュな振付とアイドルの可愛らしさ。FEVERはまさに「今までタイには無かった新しいアイドル」として歩み始めたのです。

その後「Stop!」では新世代の作曲家markmywords、「NGLMD」ではブルース・ロックを出自に持つH3FのギタリストGong Thepvipatを起用するなど、楽曲面での更なる挑戦が始まります。ラップも取り入れたエレクトロ・ブギー「If You Want Me」からはメンバーのCEEが体調不良で離脱し11人となりますが、TVのアイドル勝ち抜きバトル番組「LODI X NEXT IDOL」で優勝するなどFEVERは名実ともに「タイの楽曲派アイドル」としてポストBNK48の最右翼とみられていました。

僕が2021年5月にTBSラジオ「アフター6ジャンクション」(通称「アトロク」)に出演し放送で「If You Want Me」をかけるとライムスター宇多丸さんと日比麻音子さんが高く評価してくれました。そして沢山のリスナーが番組にメールでFEVERの名を挙げてタイポップスへの新鮮な驚きを寄せてくれたのです。コロナ禍さえ終わればいつかFEVERの日本でのライブも実現できる、そう感じた程の反響でした。

しかしアトロク放送のわずか10日後、コロナ禍でイベント等の活動ができない中スポンサー企業が撤退した事で資金繰りに窮した所属事務所は「FEVER解散」という苦渋の決断を下します。メンバーに解散が伝えられたのは公式発表の3日前。6月に医療機関へのチャリティ企画で行なわれた配信ライブを最後に、タイと海外のファンに惜しまれながらFEVERは3年間の活動に幕を下ろしました。

この時点で彼女たちにはメンバーのBOSSがアーバン・ソウルバンドThe ParkinsonのKarnと共演した「I'll Wait For You」の他、未完成の3曲(王道アイドルソング「Be My Bebe」、ラッパーTangBadVoiceをフィーチャーした「No More Tears」、ダウンナーなニューウェイブ「Robben」)が歌入れ前の状態で残されており「If You Want Me」をリードトラックに、残る3曲を完成させ最後のシングルとして発売しようと所属事務所は考えていました。

しかし既にCDで発売された2枚のシングル「Start Again」「Underground」は初期のファンの手に渡っただけで再生産の見込みもありません。このままタイ国内だけで終売すれば、後にはサブスクしか残りません。

僕は最後の配信ライブが終わって泣き崩れるメンバーたちの姿を見ていました。彼女たちにはFEVERとしての未来があるはずだった。せめて最後に、3年間の活動の証を完全な形で残せないか？それを海外のファンとも共有できないか？

「FEVERの楽曲全てを収録して、写真集などを付けたメモリアルアイテムを制作してはどうか？」という僕の提案が実現し、リリースした楽曲ほぼ全てにボーナストラックとして前述のTV番組「LODI X NEXT IDOL」の決勝ラウンドだけで披露されたニュージャックスウィングナンバー「Crush!」を収録したCDと歌詞付き72ページの写真集、4つ折りポスターとサイン(印刷)入りフォトカードをボックスに収めた最初で最後のフルアルバムが、今みなさんの手元にあるこの「ALL THE BEST」です。ついに「アトロク」でFEVERを知り好きになってくれたファンのための日本発売が叶いました。

FEVERはタイの音楽シーンを牽引する才能あるミュージシャンにとっての実験場でもありました。デビューから解散までにシティポップ/ブギー/コンテンポラリーR&B/ラップ/ニューウェイブと様々なジャンルを取り入れた楽曲が制作されましたが、そのどれもがこの1枚のアルバムの中で違和感なく共存しています。これは制作陣のビジョンの明確さだけでなく、どんなにアーティストックになろうとも最後まで「アイドル」であり続けたFEVERの良い意味での「歌手としての無色さ」によるものではないかと思います。

最後にアルバムのアートワークについても解説しておきましょう。このイラストに描かれているアメリカン・ダイナー、実は1stシングル「Start Again」内のブックレットでメンバー写真の撮影場所に使われていました。そして駐車場に停まった1台のミニバスは「Underground」のMusic Videoに登場したのと同じバスです。3年間の旅を終え彼女たちは始まりの場所へ戻ってきた、というシーンを描いたとても印象的なものになっています。

おそらくは夏の夜明け前の時間帯、24時間営業のアメリカン・ダイナー。店内にいるであろうメンバーたちは今、何を思っているのでしょうか？ネオンサインが指し示す矢印の先には朝焼けが見え始めています。しかし新しく始まる1日に、FEVERはもう存在しません。それでもこの情景からは、悲しみだけでなくその先にある希望も感じられます。日本のアイドル文化を輸入したタイで、日本人が驚く程の新鮮さに満ちたアイドルが生まれ、楽曲の魅力でタイのヒットチャート上位に食い込んでいった事も音楽シーンにとっての希望ですが、何よりもFEVERのメンバーたちにとって「アイドルとして生きた3年間」はこれからの人生を照らす柔らかな光になるはずだからです。

10年か15年先、メンバーたちが自分の子供に「ママはね、昔FEVERっていう凄いアイドルだったんだよ」とこのアルバムを棚から出して見せる時に、タイ、そして遠く離れた日本のどこかの誰かの部屋にも同じアルバムが大切に保管されていたとしたら、それはもしかするとアイドルとファンの一番素晴らしい「その後」なのかもしれません。